

連載5回目となりました。前編、中編とお送りしてきたサッカー・マニプール遠征旅行の話も今回が最終編となります。

週末プチ旅行のほが、いつの間にかマニプール州選抜との親善試合を行うこととなったFCキッカーズ。あれよと言う間に、ついに試合開始直前となりました。

試合前のウォーミングアップが終わり、試合開始まで残り三十分を切ったころ、ふと観客席を見るとそこには衝撃の光景がありました！

なんとお客さんがぞくぞくと入っているではありませんか！ あの、集合時間を決めても絶対に時間通りには来ない、遅刻のことを「インディア・タイム」とも揶揄される、あのインド人が、試合開始の三十分前にスタジアムに来ているの

日本代表!? FCキッカーズ(終)

です。これは何かとんでもないことになるのではと思っていたのも束の間、試合開始前にはスタジアムの観客席がすべて埋まってしまいました。そう、二万五千人収容のスタジアムが埋まったのです。日本のリーグでも一試合の平均観客数は二万八千人程で、それがJ2などになれば一万人集まらなくて普通だと聞きま

す。それが二万五千人、さらに立ち見の人も含めるとそれ以上の人が集まっていた。会場はものすごい熱気と雰囲気包まれ、試合開始前のセレモニーが行われます。鼓笛隊の演奏に始まり、互いの国歌斉唱、試合は国際サッカー連盟(FIFA)公認の審判が裁くことに。つまりはFIFA公認の公式試合として記録されるということ

です。会場の熱気は最高潮になったところでついにキックオフ！ 相手は二十一歳以下のマニプール州各地から集められた選抜チーム、良いところを見せて代表に定着しようと、こちらの週末プチ旅行などお構いなしにガンガン攻め立ててきます。かたやこちらは、平日はインドの過酷な環境の

たのは僕たち「FCキッカーズ」なのです。マニプール旅行を企画した時点で、誰がこんな結末を想像できたでしょうか。

試合は前半、後半を戦い、最終的には4対1でマニプールU-21選抜の勝利。チームは何とか最後まで戦い抜き、メンバーでその健闘を称え合いました。その日の夜、重圧から解放された

中、身を粉にして働く駐在員、そして栄養失調気味の留学生で結成されたチームです。試合は予想通り相手のワンサイドゲームの様相となり、観客席からもヤジのようなものが飛び出す始末。観客はおそらく日本代表が来ると思っていたので、と思う気持ちはお察し致します。…が、本当に騙され

僕たちはこの旅において、太平洋戦争時、インパール作戦によって命を落とした方々を祀る慰霊碑にお参りさせてもらいました。今から七十年以上も前に、日本から遠く離れたインパールにまで歩を進めてきた人々は、いったいどのような気持ちでこの日々を過ごし、そして無謀と分かってながらも戦いを続けたのでしょうか。

翼朝、朝食時に新聞を開くと、そこには「期待外れ、失望」などのショッキングな見出しとともに、昨日の試合の様子が伝えられていました。到着した日の熱烈な歓迎、試合当日はその興奮を伝え、そして「親善」試合として行われたのはお構いなしに、最後には

痛烈な批判と辛辣な言葉の数々。僕たちはインドの地でメディアの怖さを身をもって知ったのです。

はからずも二万五千人の観客が押し寄せ、ものすごい熱気に包まれたスタジアムで

と分かりながらも、それでも全力で戦った僕たちの時間が、これからもインパールの地で、その場を共有した皆の胸の中に、平和交流の記憶として残り続けることを願いたいと思います。

「FCキッカーズ」。無謀だナマステ。



いせ・つかさ 1988年生まれ。同志社大学商学部卒。バラナシ・ヒンドウ大学 観光経営学科 修士課程修了。インド政府公認旅行業務取扱管理者 及び 日本に於いて総合旅行業務取扱管理者。「日本とインド、人をつなぐ」をモットーとした株式会社ジャパンディアを設立し代表を務める。旅行事業を中心に、インドに関する各々の希望や相談一つひとつに丹念に応じしている。